

科目名	ビジネス倫理学	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			経済学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Business Ethics	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年	
			開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	にしまき じょうじ	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	西巻 丈児	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	<p>ビジネスの価値基準（例えば、利潤や業績の高低など）と、人間の行為における善悪を扱う倫理学の価値基準（例えば、「～するべきだ」、「～するべきではない」など）を掛け合わせたところに成立する、応用倫理学の一分野が「ビジネス倫理学」である。</p> <p>例えば、非倫理的なことをしているが業績は好調である企業や、人のためになっているが業績は低調な企業などの事例に関して、それぞれの業績と倫理的な価値を共に高くしていくためには、いかにしたらよいのかを考えるのがその一例である。</p> <p>営利を目的とする企業の基本的性格を理解するとともに、ビジネス倫理の実践が企業の存続に必要不可欠であることを理解できるようになる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス倫理学の本質と意味を説明できる。 ・ビジネスにおいて、さまざまな倫理観が要請されることを説明できる。 			
授業概要	<p>現代社会においては、さまざまな場面で倫理の必要性が叫ばれている。倫理の必要性は、企業側だけに求められるものではなく、消費者側にも倫理観に敏感になることが要求されている現状がある。</p> <p>この授業では、まず倫理を理論的に理解することから始め、ビジネスの場面で実際に起こったケースを精査することによって、現場からの実践としての倫理の側面も学ぶ。その結果、理論と実践を併せ持った、より現状に則したビジネス倫理を考えていく。</p>			
授業計画				
第1回	イントロダクション ―なぜビジネス倫理学を学ぶのか―			
第2回	ビジネスの倫理学とは			
第3回	理論としてのビジネス倫理			
第4回	倫理的利己主義とリバタリアニズム			
第5回	功利主義と費用・便益分析			
第6回	義務論に基づくビジネス倫理			
第7回	正義論に基づくビジネス倫理			
第8回	実践としてのビジネス倫理			
第9回	従業員関連の倫理			
第10回	顧客関連の倫理			
第11回	地域社会の倫理			
第12回	国際ビジネスの倫理			
第13回	制度としてのビジネス倫理1 ―企業内制度―			
第14回	制度としてのビジネス倫理2 ―民間支援制度―			
第15回	本授業の総括			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度)</p> <p>企業の行動と倫理に関する情報について、書籍・ニュース・ウェブなどから授業内で紹介するので、ここでは何が問題とされ、問題の所在がどこにあるのかなど、自分なりに分析しておくこと。</p> <p>復習：(1.5時間程度)</p>			

	<p>① 授業を振り返って内容を整理する。</p> <p>② 理解できていない事柄を、次の授業で適確に質問できるよう用意する。</p>
履修条件 受講のルール	予習・復習を必ずして、積極的に授業に参加すること。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。 また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	梅津光弘『ビジネスの倫理学』丸善出版 その他は、授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	毎回提出してもらおうリアクションペーパーによる理解度（45%）、定期試験（55%）を総合的に評価する。 また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	将来社会に出て、企業の一員となったときにどのような行動をとるべきか、というみずからの倫理観を培うことを自分に課すようにすること。 消費者という現在の身分においては、ビジネスの倫理に敏感になること。